

更生保護活動に取り組んで

福德 昭彦

平成18年5月、地区の方と保護司会元会長の勧めもあり、保護司としての委嘱を受けました。

自分にそのような職が務まるか心配ではありましたが、引受けることにしました。研修会等に参加させていただくと中学校の時の恩師だったり、親切的な先輩方ばかりで、少し安心しました。

委嘱を受けてから数か月後に初めての担当通知書が届き、いよいよだなと思う反面、自分にできるのだろうかという不安もありました。わからないことばかりで主任官や先輩方に教えてもらいながら、どうにか終えることができました。

保護司になって16年余り、いろいろな事案に出会いました。その中でも生活環境調整をするときに、相手が外国人の方だった時はどう対応すればいいのかわかりませんでした。対象者宅を訪ねるとき、その趣旨を伝えるにも言葉が通じないし、その時はたまたま相手の方の知り合いに通訳のできる方がいて、どうにか内容を伝えることができました。数か月後に、又訪ねなくてはならないと思っていたら、幸いにも相手のお子さんが市内の中学校に通っていて少しは日本語が理解できるので、休みの日に通訳をお願いし、事なきを得たことが今でも思い出されます。

これまで担当した件数は定かではありませんが、対象者が観察期間中に再犯したり、幾度も住居を変えたりしたこともありました。また、職に就きたくても運転免許がないし、自動車学校に行こうにも資金もないしということで私の会社でアルバイトをした子もいました。

これまで担当してきた対象者の中で残念ながら再犯し、社会復帰のできていない人もいますが、大半の人は更生し真面目に生活を送っています。

主観ではありますが人はそれぞれの性格と周りの環境によって少しなりと、左右されるものだなあと感じています。体験談というよりも作文みたいになりましたが以上です。

これからも更生保護活動に尽力したいと思います。

保護司というボランティア

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。月に2～3回程度、自宅や更生保護サポートセンターで保護観察を受けている人と面接をして、助言や指導をしています。また、街頭で啓発活動を行ったり、講演会を開いたりするなど、地域での犯罪予防活動も積極的に行っています。このように、保護司は、私たちが暮らす地域の安全・安心のために貢献するボランティアです。

しかし、現在、保護司の数は減少傾向にあり、約40年ぶりに全国で4万7千人を下回るなど、厳しい状況にあります。また、保護司の平均年齢も65歳を超え、高齢化も進んでいます。保護司になっていただける方を求めています。保護司についてもっと知りたい方は伊賀保護司会にご連絡下さい。

令和4年度保護司会活動（前期）



保護司会総会 5/27



中学校と懇談会 7月～9月

第72回社会を明るくする運動

7月2日、伊賀市の大山田産業振興センターどんぐりホールで啓発式典（作文コンクール表彰式等）を開催しました。本年もコロナ感染予防のため、スーパー等での啓発活動はとりやめました。



※社明運動に市民の皆様からの「愛の資金」を活用させていただいており、お礼申し上げます。
※伊賀保護司会では、犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける「協力雇用主」を募集しています。